

短報

近年, 日本海で採捕された  
アカイカについて

笠原 昭吾<sup>1)</sup>

**Recent Records of the Oceanic  
Squid, *Ommastrephes bartrami*  
(LESUEUR), in the Sea  
of Japan**

SHOGO KASAHARA

**Abstract**

The oceanic squid, *Ommastrephes bartrami* (LESUEUR), is a very common species in the north-western Pacific but is rare in the Sea of Japan. Recently five specimens of this squid were caught in this marginal sea. Two of them were found in the common squid catches by a squid angler in the offshore waters on the 13 and 14 of September, 1978. They were young specimens. The other three were caught by a set net and scoop net in the coastal waters during October and November, 1981. Two of them were judged older but the other could not be observed.

So far, five specimens of this rare squid have been subjected to closer observation in the Sea of Japan. Based on relevant information such as the fishing and biological conditions in the Pacific waters, it may be concluded that at least the specimens found in 1981 entered the Sea of Japan through Tsugaru Strait during the summer season.

アカイカ *Ommastrephes bartrami* (LESUEUR) は頭足類 (Cephalopoda), ツツイカ目 (Teuthoidea), アカイカ科 (Ommastrephidae) に属し, 世界の温帯及び熱帯域に広く分布している (奥谷, 1973・1980). 本邦太平洋海域においては, 暖水域から混合水域に高密度で分布し (村田ら, 1976・1980; 内藤ら, 1976・1977; 村上ら, 1981), 近年, 漁業上重要な資源となつている. しかし, 北太平洋の縁海である日本海では, 分布はもちろぬ捕獲例も極めて少なく, 筆者の知る限りでは沖合中央部の大和堆に分布しているとの記載 (瀧, 1965) と, 採捕標本に関するものとしては浜部 (1962) による 1 例が報告されているにすぎない.

1974~1978年に日本海のスルメイカ漁場でスルメイカに混じつてアカイカが捕獲されたとの漁船情報があつた. 更に, 近年, 日本海の沖合と沿岸においてアカイカ 5 個体が採捕された (第 1 表 2~6). これらは稀な事例と考えられるので, 近年の例を採捕標本の測定結果とともに日本海におけるアカイカの採捕記録として報告する.

今回, 得られた 5 標本を含むアカイカの採捕時期, 場所及び漁具等を第 1 表, 第 1 図に示した. また, これら標本の主要項目測定結果, 肥満度 [体重 ( $g$ ) / 外套長<sup>3</sup> ( $cm$ )  $\times 10^3$ ], 成熟度指数 [生殖巣重量 ( $g$ ) / 外套長<sup>3</sup> ( $cm$ )  $\times 10^4$ ] 及び肝臓重量指数 [肝臓重量 ( $g$ ) / 外套長<sup>3</sup> ( $cm$ )  $\times 10^4$ ] を第 2 表に示した.

**1978年採捕標本 (標本番号 2, 3)**

1978年採捕の 2 標本は, 日本海沖合水域で新潟県水産試験場調査船“越路丸 (156.48トン)”によるスルメイカの漁獲試験中, スルメイカに混じつて釣獲されたものである. すなわち, 標本番号 2 は, 9月13日00時25分~05時00分間に, 機械釣りにより 0~50m 層から, また, 標本番号 3 は翌 9月14日の 22時頃手釣りにより水深 20m 付近からそれぞれ釣獲され, 同場宮島英雄技師によつて測定された. この 2 標本は, 外套長 24.0cm の雄と 25.5cm の雌であり, 両者とも生殖巣等は未発達で未成体期~成体期前半のものであつた.

**1981年採捕標本 (標本番号 4, 5, 6)**

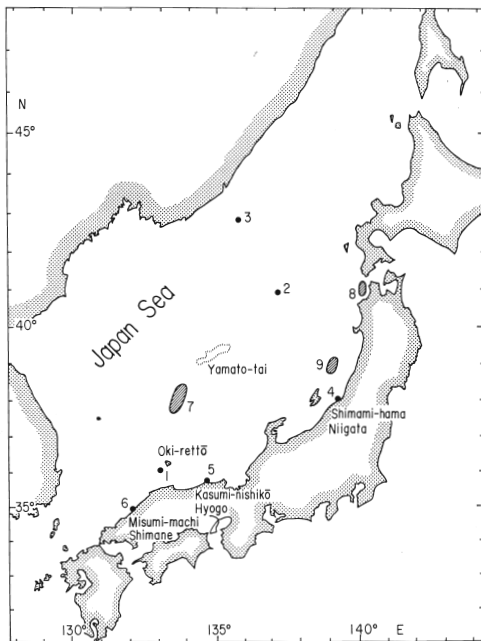
1981年の 3 標本は, いずれも本州沿岸で採捕された. 標本番号 4 は, 10月28日新潟市魚市場において, 同市島見浜小型定置網漁獲物の中から, 日本海に

1) 〒951 新潟市水道町 1 丁目 5939-22  
日本海区水産研究所  
(Japan Sea Regional Fisheries Research  
Laboratory, Suido-cho, Niigata 951, Japan)

第1表 アカイカ採捕の日時, 位置, 漁具及び報告・採捕者

Table 1. Records of *Ommastrephes bartrami* in the Sea of Japan. As for numbers 7-9, close studies not available.

No.	Date	Location	Gear	Observer
1	Mar. 27, 1959	Nishino-shima, Oki (36°-04'N, 133°-00'E)	Yellowtail set net	M. Hamabe (1962)
2	Sep. 13, 1978	Offshore area (40°-56'N, 137°-07'E)	Squid angling	H. Miyajima
3	Sep. 14, 1978	Offshore area (42°-50'N, 135°-40'E)	Squid angling	H. Miyajima
4	Oct. 28, 1981	Shimami-hama, Niigata (37°-59'N, 139°-11'E)	Small set net	I. Okachi
5	Nov. 14, 1981	Kasumi-nishiko, Hyogo (35°-39'N, 134°-38'E)	Scoop net	T. Nazumi
6	Nov. 25, 1981	Misumi-machi, Shimane (34°-43'N, 132°-03'E)	Yellowtail set net	J. Adachi
7	Oct., 1974	North of Oki Islands	Squid angling	T. Nazumi
8	Sep., 1976	West coast off Aomori Prefecture	Squid angling	M. Tamura
9	Aug., 1978	Off Awashima Islands, Niigata Prefecture	Squid angling	H. Miyajima

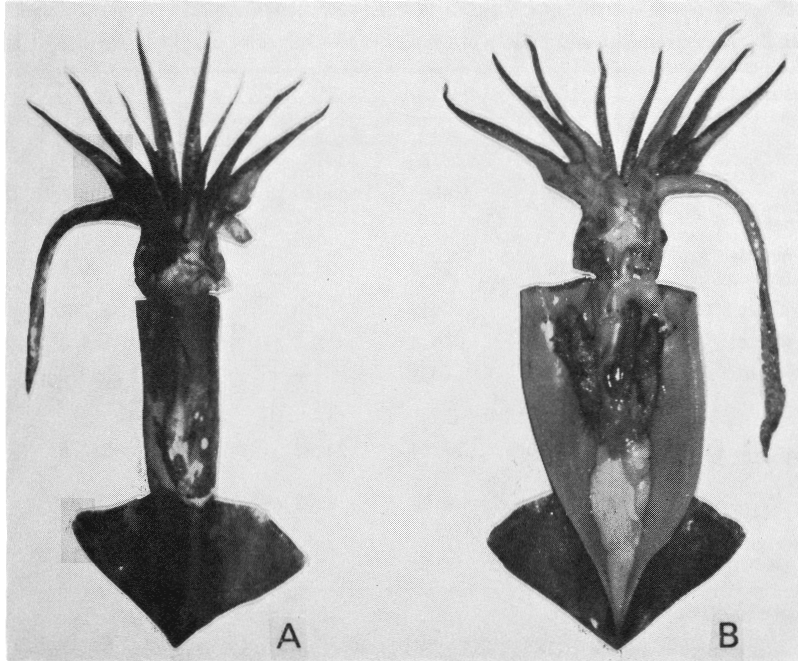


第1図 アカイカの採捕地点と混獲された場所  
Fig. 1. Localities of the occurrences of *Ommastrephes bartrami* in the Sea of Japan. Numbers are corresponding to Table 1.

産研究所岡地伊佐雄技官によつて発見された。この標本は右触腕が基部から約4cmのところまで切れていたが(第2図), その先端部は表皮で完全に覆われ, 再生触腕の形態A型(村田, 1981)にもつとも近い状態にあつた。この標本は雄で, 精巢(重量21.2g)は白化し, 輸精管と貯精嚢重量は7.0g, 精莢嚢重量は13.7gであつた。そして, 精莢嚢中には長さ27~33mmの精莢が635本以上貯蔵されており, 精莢に活力が認められた。成熟度指数は7.7で, 鈴木(1980)の報告による1977年9~10月の三陸沖の雄の平均2.2及び1978年5月紀南礁標本の3.6よりもかなり高いものであつた。

標本番号5は, 11月14日兵庫県香住町西港内に衰弱状態で浮遊していたものをタモ網で採捕し, 兵庫県但馬水産事務所試験研究室名角辰郎技師によつて測定されたものである。この標本は雌で, 輸卵管内には“アメ色の熟卵”がみられ(輸卵管内卵重量24.0g), 卵巣内にも卵が充満(卵巣重量115.0g)していた。纏卵腺は長さ135mm, 重量54.0gで白化していた。成熟度指数は9.48で, 三陸沿岸の9~10月の雌イカ平均の成熟度指数1.4よりかなり高く, 紀南礁5月の産卵直前の完熟アカイカの12.1(鈴木, 1980)に近いものであつた。

標本番号6は, 11月25日に日本海本州西部沿岸の島根県三隅町岡見のブリ定置網で採捕され, 体重秤



第2図 新潟市島見浜で採捕されたアカイカ

Fig. 2. A male specimen of *Ommastrephes bartrami* caught on the coast of Shimamihama, Niigata Prefecture on October 28, 1981.

A: Dorsal view. B: Ventral view (mantle cut open to show the viscera).

量 (500g) の後、開腹内臓除去の状態で島根県水産試験場に持ち込まれ、同場安達二郎技師によって同定されたものである。

これで、日本海におけるアカイカの採捕、生体標本測定資料は、浜部 (1962) の報告を含め6個体となる (第2表)。なお、これらのほか、1974年10月に隠岐諸島北沖、1976年9月に青森県西部沿岸、1978年8月に新潟県粟生島沖の各スルメイカ漁場において、アカイカの混獲が認められている (第1表) ことは最初に述べたとおりである。

北西太平洋域アカイカの産卵場は伊豆諸島以南 (または以西) の広範囲に存在する瀬や礁あるいは南西諸島の周辺域と考えられている (鈴木, 1980)。ここで発生した群は5~8月には $35^{\circ}\sim 40^{\circ}\text{N}$ の混合水域を黒潮系暖水分派ぞいに北~北東方向へ回遊し、8~10月には $40^{\circ}\sim 46^{\circ}\text{N}$ の親潮前線域~親潮域の表層水域に主に分布し、この時期の群 (未成体期~成体期前半にかけての索餌回遊群) が主に漁獲の対象になつている (村田ら, 1980)。そして、本邦太平洋近海におけるアカイカ漁場は襟裳海山沖 ( $41^{\circ}\text{N}$ ,  $144^{\circ}\text{E}$  付近) に形成されるのが通例である

が、1981年は親潮の顕著な接岸もあつて、アカイカは津軽暖流域にとくに多く分布し、9月~10月中旬頃まで久慈~八戸の三陸沿岸部に好漁場が形成され、小型船によって好漁がみられた (岩手県水産試験場井ノ口伸幸技師からの私信)。1981年に日本海沿岸域に出現したアカイカは、10月下旬~11月下旬に順次南に移つて採捕されていること、測定された2標本が性成熟に達していたことなどから、夏に本邦北部太平洋海域で成長をつづけていたものが、南下回遊の過程で津軽海峡を通つて日本海に移動してきた可能性が強いと考えられる。1978年の沖合域出現のものについては不明である。いずれにしても、漁船による捕獲情報を含め、日本海においてアカイカの出現がめだつようになったのは、本邦太平洋近海域でアカイカ漁業が始まつた1974年からであり、近年、この海域でアカイカの資源量が増大していることと併せ興味深い。

おわりに、標本を提供していただいた岡地伊佐雄技官並びに標本の測定記録および漁船情報を寄せていただいた名角辰郎技師、宮島英雄技師、安達二郎技師、田村真通技師に対し感謝の意を表する。

第2表 アカイカ標本の測定値と肥満度, 成熟度指数, 肝臓重量指数

Table 2. Measurements and indices of *Ommastrephes bartrami* caught in the Sea of Japan.

Samples number	1*	2	3	4	5	6
Date	Mar. 27, 1959	Sep. 13, 1978	Sep. 14, 1978	Oct. 28, 1981	Nov. 14, 1981	Nov. 25, 1981
Sex	Female	Male	Female	Male	Female	Unkoun
Measurements:						
Dorsal mantle length (cm)	50.0	24.0	25.5	30.1	49.5	—
Body weight (g)	4,900	512	400	720	2,761	500
Gonad weight (g)	—	0.8	2.7	21.2	115.0	—
Liver weight (g)	—	30.7	—	20.0	220.0	—
Indices:						
Fatness BW (g) × 10 <sup>3</sup> /ML <sup>3</sup> (cm)	39.20	37.04	24.12	26.40	22.76	—
Maturity GW (g) × 10 <sup>4</sup> /ML <sup>3</sup> (cm)	—	0.06	1.63	7.77	9.48	—
Liver weight LW (g) × 10 <sup>4</sup> /ML <sup>3</sup> (cm)	—	22.21	—	7.33	18.14	—

\*After Hamabe (1962)

文 献

浜部基次 (1962). 日本海西南海域におけるスルメイカの発生学的研究. 日水研報告, (10) : 1~45.

村上幸一・渡辺安宏・中田 淳 (1981). 北太平洋におけるアカイカの成長と分布・回遊. 北大北洋水産研究施設業績集, 特別号 : 161~179.

村田守・石井正・新谷久男 (1976). 北海道・三陸太平洋海域における外洋性イカ類 (アカイカ, ツメイカ, タロイカ, スルメイカ) の分布について. 北水研報告, (41) : 1~29.

村上幸一・大迫正尚 (1980). アカイカ資源. 日本水産学会漁業懇話会報, (15) : 50~66.

村上幸一・大迫正尚 (1981). アカイカの触腕の再生について. 北水研報告, (46) : 1~14.

内藤政治・村上幸一・中山信之・小林 喬・小笠原惇六 (1976). 北西太平洋におけるイカ類の分布と環境. 水産海洋研究会報, (29) : 53~55.

村上幸一 (1977). 北西太平洋亜寒帯水域における外洋性イカ類の分布と回遊. 北大北洋水産研究施設業績集, 特別号 : 321~337.

奥谷喬司 (1973). 日本近海産十腕形頭足類 (イカ類) 分類・同定の手引. 東海水研報告, (78) : 83~111.

奥谷喬司 (1980). 新・世界有用イカ類図鑑. 全国いか加工業協同組合刊, P. 56~57.

鈴木弘毅 (1980). アカイカ (*Ommastrephes bartrami* LESUEUR) の生態に関する研究 I 性成熟個体について. 水産海洋研究会報, (36) : 11~18.

滝 巖 (1965). ばかいカ, *Sthenoteuthis bartrami* (LESUEUR). 新日本動物図鑑[中], 北隆館刊, P. 319.